

## 福祉サービス第三者評価結果（総括表）

### ① 第三者評価機関名

株式会社評価基準研究所
-------------

### ② 施設・事業所情報

名称：たかば保育園	種別：認可保育所
代表者氏名：清水 利春	定員（利用人数）：271名
所在地：茨城県ひたちなか市高場1615番地	
TEL：029-297-6200	ホームページ：http://seishin.biz/
<b>【施設・事業所の概要】</b>	
開設年月日：昭和50年4月	
経営法人・設置法人（法人名等）：社会福祉法人 清心福祉会	
職員数	常勤職員：26名 非常勤職員：30名
専門職員	保育士：40名 調理員：3名
	看護師：4名 栄養士：2名
	保育士サポーター：3名 事務員：2名
	用務員：1名
施設・設備の概要	居室数 保育室：13、子育て支援室：1、病後児室：1、事務室：1 園長室：1
	設備 沐浴室：1、給食室：1、倉庫：2、トイレ：5、 ホール：1、ステージ：1 建物面積：2334㎡

### ③ 理念・基本方針

- |  |
|--|
| <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 経営理念：法人としての基本的な方向性・価値観を明確化し、日々の保育・運営の判断基準として活用。</li> <li>2) VISION・MISSION・PASSION・ACTION ステートメント：経営理念の実現に向けた具体的な指針、職員の行動や保育方針に反映。</li> <li>3) スローガン：「子どもの成長の機会」を大切にし、職員や保護者に分かりやすく親しみやすい形で理念を共有。</li> <li>4) 中長期保育テーマ・中長期職員テーマ：5年ごとの見直しを通じ、子どもの成長を育む保育方針や職員育成方針を定め、理念と現場を連動。</li> <li>5) 年度ごとの保育テーマ・職員テーマ・三大重点項目：中長期テーマを達成するために単年度でテーマを設定。</li> </ol> |
|--|

#### ④施設・事業所の特徴的な取組

常に課題を見つけ最適スピードで業務改善を行うすぐれた組織マネジメントの下、食育・徳育・才育・体育・知育の五育を大切にされた保育が行われている。なかでも本園の伝統ともなっている音楽（合奏）活動は、子どもたちの主体性・協働性を育む非常に高いレベルの活動となっている。こうした質の高い保育を可能にしているのは、多年の研究に基づき構築した独自の教育メソッドとそれを適切に展開できる保育者の高いスキル・協働体制である。日々の保育の中で、保育者と子どもが最大限に力を発揮し、健やかに調和し相互を尊重しながら安定した心で協働する園文化が形成されており、園全体で、生きる力と感謝の心を持ち平和と社会に貢献できる人間育成に取り組んでいる。また病後児保育、子育て支援、放課後等デイサービス、児童発達支援施設など、地域に向けた総合的な子育て支援を行っていることも大きな特長である。

#### ⑤第三者評価の受審状況

評価実施期間	令和7年9月1日（契約日）～ 令和8年3月26日（評価結果確定日）
受審回数（前回の受審時期）	2回（令和2年度）

## ⑥総評

◇特に評価の高い点

### 【理念を構造化・実装し自走する組織運営体制が確立できている】

本園は理念やビジョンを掲げるにとどまらず、中長期テーマから単年度計画へ体系的に展開し、会議体での振り返りと運営改善会議での分析を通じて実践へ接続している。未満児・以上児チーム会議やリーダー合同会議での検証は形式的確認に終わらず、具体的改善行動へ結び付いている点が特徴である。さらに、保護者アンケートや第三者評価の結果も分析され、次年度計画や職員研修へ反映されている。制度や仕組みが個人の力量に依存せず循環し、理念実現に向けた取組が継続的に推進されている。これは組織マネジメントにおける本園の最大の強みであり、特徴である。

### 【子どもの健やかな成長を目指し、「食育・徳育・才育・体育・知育」五育を大切にした保育が行われている】

食べ物の大切さや、健康的な食習慣を身につける「食育」、思いやりや礼儀など豊かな心を育てる「徳育」、音楽や制作活動を通して感性や表現力を伸ばす「才育」、外遊びや運動によって丈夫な体を育てる。「体育」、遊びや様々な体験を通して考える力や学びの基礎を育てる「知育」を、バランスよく取り入れている。それは、脳科学に基づいた「動き、言葉、リズム」を基調とした教育メソッドで、「運動ローテーション」と「日課活動」が全クラスに取り入れられており、子どもの興味や関心を引く構成で進められているため、子どもたちは楽しく取り組み、達成感を感じている姿がある。また、STEAM 保育も導入し、教育プログラムと、遊びにメリハリをつけながら、子どもが意欲的に取り組めるよう工夫している。さらに、音楽など、本物に触れる体験や、外遊び、制作活動、季節の行事など多くの経験を通して、子どもの心・体・感性を豊かに育むことを大切にしている。

### 【最適スピードで改善を続ける良好なサイクルが、園の保育の質の向上を支え、おちついてゆったりとした空気感をつくりだしている】

保育の質の向上とそれを実現するための保育者の保育スキルの向上、分野ごとに業務改善を続ける会議・委員会体系、人権意識の向上や倫理遵守につながる研修体系と地域の福祉ニーズに応える発達支援や病後児保育、さらには将来の保育界を担う人材を育てる高校生ボランティアまで、本園あらゆる角度から地域のニーズに応え総合的に保育の質の向上に取り組んでいる。まさに全員全力疾走のイメージだ。しかし本園の空気感は（意外にも）ゆったりと落ち着いている。それは理事長・園長をはじめとする本園の経営陣が、さまざまな取り組み・あらゆる場面で、常に職員の働きやすさ、職員の負担増をさけ無駄をなくす効率化、業務のスマート化を強く意識し、一人一人の職員と現場を大切にしているからだろう。常に課題を見つけ最速で改善を目指しながら、全員が息は揃えて余裕をもって快適に走り続ける、いわば「最適スピードでの改善」なのだ。こうした良好なサイクルが力強い大きな動輪となり、本園の質の高い保育を支え、心地よい空気感をつくりだしている。

◇改善を求められる点

**【豊かに展開する保育活動を、今までの推移や園の理念、こめられた思いとともに言語化し、より深い共有とスムーズな継承につなげてほしい】**

カードや読み物などさまざまな教材を用いて言葉や数への興味・関心を高めている朝の会、活動の間の月刊絵本の活用、朝の運動遊び、それぞれのクラスで行う活動、そして年長児を主に取り組むきわめて高いレベル音楽活動など、本園では保育の中の学びに力をいれた多彩な活動が展開されている。こうした活動は本園が長年所属してきた保育研究団体の研究成果をもとにしながら、本園の理念や地域の特性に合わせて考え継承されてきたものであり、それを伝える保育者のスキルも（ごく基本的なマニュアルはあるが）マニュアル頼りではなく人から人へ伝える形で伝承されてきた。こうした現状からの課題をあげるとすれば、本園が長年にわたり大切に紡いできたこれらの活動の言語化かもしれない。それぞれの活動の意義や理念とのかかわり、そこに込められた思いなどもふくめて言語化していけば、迷ったときの力になり、現実と照らし合わせて課題を見つけやすくもなり、共有や理解もより深まるだろう。本園の豊かな保育をわかりやすく言語化し、より深い共有とスムーズな継承につなげてほしい。

**【乳児保育室の物的・空間的な環境を工夫し、もっと子どものワクワク感を誘い、にぎやかな乳児室環境をつくってほしい】**

本園の乳児室では、よく整理された空間で子どもたちに対して丁寧に関わる保育者の姿、安心し寛いで過ごす子どもの姿が見られる。こうした現状からの課題としては、子どもたちが自ら発見し関わるような物的環境の工夫や、子どもの室内での活動、関わりを促進する空間的な環境の工夫だろう。さまざまな活動が活発に展開されている幼児クラスの保育室と比べ、少し静かな印象を持った。現在の乳児室に興味を持ちそうなもの、玩具などをもっと（目と手が届くところに）豊富に配置すれば、子ども自ら環境に関わっていく機会が増えるかもしれない。また静的な遊びと動的な遊びの切り分けをより分かりやすくすれば、子どもの動きがもっとダイナミックに展開するかもしれない。こまかい場の意味や活動の主旨を理解して取り組むわけではない乳児だからこそ、保育室全体での環境づくりが重要になる。子どもたちが意欲的にどんどん手を挙げ発言し、さまざまな活動に取り組む幼児クラスにつながる第一歩として、乳児のワクワク感を誘うような物的・空間的環境の工夫に期待したい。

**【現在の充実したクラスでの活動を土台にして、異年齢のかかわり、空間的な環境の拡大を工夫してほしい】**

朝の会でのさまざまな学びの機会、園庭での運動遊び、多彩な設定保育とクラスでの活動がきわめて充実している本園の保育の中、さらなる改善という意味であげられるのは、意識的な異年齢の関わりづくりと空間の有効活用だろう。まず異年齢の関わりという意味では、例えば活動の合間などに子どもたちがフリーで（少人数のグループで）遊べるスペースをつくって異年齢の子ども同士の自然な関わりを促したり、運動遊びなどの時間に年上の子がチームで年下の子のクラスに入り模範を示したりなど、さまざまな工夫が考えられる。またスペースの活用という意味でも、広い廊下や園舎内のフリースペースをこうした交流の場や継続的な自由遊びの場に活用すれば、子どもの遊びの幅も広がるだろう。特に廊下は広々としたスペースがあるので、空間的な環境としての可能性は大きい。さまざまなクラスの子の作品などが廊下に並んでいれば子どもたちにとっていい刺激になり、また細長く展開できる遊び

の場アレンジすれば遊びの発展も望める。今後の工夫に期待したい。

#### ⑦第三者評価結果に対する施設・事業所のコメント

このたびは、当園の保育および運営に対し、丁寧かつ多角的なご評価と貴重なアドバイスを賜り、心より御礼申し上げます。

理念や基本方針の明文化及び周知に関する取組、並びにそれらを基盤とした日々の保育実践について評価をいただき、大変ありがたく受け止めております。また、職員間において一定の共通理解のもと保育が行われている点についても評価をいただき、これまでの取組の方向性を確認する機会となりました。

一方で、理念や方針をより深く理解し、職員一人ひとりの具体的な保育実践へと確実に結びつけていくことの重要性についてアドバイスをいただきました。今後は、日々の保育の振り返りや職員間の対話をより充実させるとともに、理念がどのように日常の保育場面に表れているかを丁寧に確認し合いながら、理解の深化と実践の質の向上を図ってまいります。

さらに、理念の共有にとどまらず、それぞれの職員が自らの言葉で理念を捉え、主体的に保育へと反映していくことができるよう、園内研修や対話の機会の充実にも取り組んでまいります。

今後も、理念を基盤とした保育の実践を大切にしながら、子ども一人ひとりの中にある「ときめきの種」を見つけ、その育ちを丁寧に支え、保護者及び地域から信頼される園づくりを一層推進してまいります。

#### ⑧評価細目の第三者評価結果（別紙）

## 評価細目の第三者評価結果（個票）

※評価細目について、判断基準に基づいた評価結果を表示する。

※評価細目毎に第三者評価機関の判定理由等のコメントを記述する。

### 評価対象Ⅰ 福祉サービスの基本方針と組織

#### I-1 理念・基本方針

I-1-(1) 理念，基本方針が確立・周知されている。		
評価細目	評価結果	コメント
I-1-(1) ① 法人や施設（事業所）の理念が明文化されている。	a b c	

#### I-2 経営状況の把握

I-2-(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		
評価細目	評価結果	コメント
I-2-(1) ① 事業経営を取り巻く環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	a b c	
I-2-(1) ② 経営課題を明確にし，具体的な取り組みを進めている。	a b c	

～以下，評価基準に沿って評価細目毎に公表